

2023 年度 学校法人 三幸学園 札幌医療秘書福祉専門学校 自己評価

自己評価報告責任者：副校長 水尾 有菜

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」の下、医療・福祉分野の専門学校として「医療、福祉現場を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療・福祉分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

重点目標

1) 生徒指導について

□ 業界理解

- ・企業連携科目のみならず、業界の理解を深めるために企業講話を実施。
- ・インプットした内容をアウトプットする機会を実施。(研究発表会・シミュレーション大会)

□ 退学防止

- ・担任以外の教員も面談に入り、相談しやすい環境作りの強化。
- ・複数担任制度導入。
- ・スクールカウンセラー利用による、学習・精神面のフォローアップを強化。

□ 企業連携

- ・学校にて就職説明会を実施する等、学校に足を運んでいただき、学生の様子を実際に見て頂く場を設けた。
- ・シミュレーションコンテストにて、外部の医療機関の方(約20名)を招待し、現場の声を学生に反映。

2) 教職員に対して

□ 業界理解

- 業界理解勉強会を月1回程度実施。また、各種関連資格取得支援の実施。
- 各学科の実習や就職に対して、理解を深めるために勉強会を実施。

□ 授業、生徒指導力向上

- ・新入教職員研修を実施。(各学科の説明、理念の浸透)
- ・生徒が実施する授業満足度アンケート向上のための研修を実施した。
- ・教職員同士の授業見学や姉妹校含む授業アンケート上位者の「授業づくりのポイント」を知る機会を設けた。

- ・同法人の通信制高校教員を会議にお呼びし、最近の高校生の傾向や通信制高校の学び方について学ぶ機会を設けた。
- ・発達障害やメンタル面に不安がある学生への対応について理解を深めるため心理カウンセラーの方を招き、講話の実施

3)卒業生徒の繋がりについて

- ・実習ガイダンスや就職ガイダンス、行事のご来賓等で卒業生に協力してもらった場面を増やし、学生との繋がる場を設けた。
- ・各業界で活躍している卒業生をオープンキャンパスに呼び、各業界を目指している高校生と話す場面をつくった。
- ・繋がりが途絶えないよう、コロナ禍で謝恩会が実施できなかった卒業生に対して同窓会を実施した。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・教職員に対し、教育理念・人材育成像などは、全体の場で何度も確認しているため、浸透しているように感じる。生徒には年度初めの行事やホームルームで伝える工夫はしているが、日々の継続した発信・確認が必要である。保護者にむけて直接的にビジョンを伝えることが難しく、オンライン配信となってしまった。

② 今後の改善方策

1)生徒に向けて

- ・年度初めだけではなく「どのような人材が社会で求められるか」自分事として理解させる機会をつくる。
(未来デザインプログラム・業界理解/ホームルーム授業内で実施)
- ・月ごとに社会人として身につけておくべき人間性について、出来ているかどうかの振り返りを実施
⇒クラスごとに課題を設定して、その課題を意識しながら学校生活を送るように取り組み

2)保護者に向けて

- ・オープンキャンパス保護者会時に「学校理念・目的・育成人材像」についてお伝えし、賛同いただく。
- ・2024年度は対面で保護者会を実施出来たため、今後は時期や内容の精度を高められるように精査。

③ 特記事項

・昨年に引き続き、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーから、育成人材像が明確化され、そのゴールのための教育課程を編成することができた。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・チャットやオンライン・クラスルーム等便利なツールが増え、いつでもどこでも簡単に業務ができるようになった分、時間の制限なく実施できるため、残業時間の増加につながっている。
- ・ワークバランスの見直しと取捨選択が必要である。また、本来大切にしないといけない「人と人の繋がり」が希薄になってしまう恐れがある。

② 今後の改善方策

- ・新入教職員を始め、年に3回実施している全体会議の場で、学ぶ機会を設けていく。
- ・伝統校である故に、取捨選択に時間がかかる。全教職員が“変化を歓迎できる”よう日々の業務から意識改革が必要である。
- ・残業時間の申請について、改めて管理制度を整えていく。
- ・手帳の使い方や仕事の仕方について勉強会を開いていく。
- ・残業する基準を明確にして、職員へ浸透させていく。

③ 特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・保育、介護分野においては産学連携の機会も増えているが、医療系学科がまだまだ不十分と感じる。評価をいただけるタイミングが現場実習や行事と限られている。
- ・最先端の情報や今必要とされているニーズを生徒へ伝える機会がまだまだ不足している。

② 今後の改善方策

- ・現場実習に行く前の早い段階で“病院”で働くイメージをつけられるよう見学の機会を設けていきたい。また、授業内容によっては現場の方に教えて頂く等 授業展開の工夫を図る。
- ・カリキュラム変更・シラバス公開に伴い、多くの業界の方に授業内容を見ていただける環境は整っているため、意見をいただける関係構築に注力をしていく。
- ・実習以外でも現場に足を運ばせていただき、関連業界との繋がりを強化するとともにいただいた情報を、全教員へ共有し生徒指導役立てていく。
- ・医療事務科の病院見学導入予定
- ・その業界の経験者が授業を実施できる環境づくりの実現
- ・美容医療コース開講に向けて、カリキュラムを美容クリニックと提携し、作成中。

③ 特記事項

年に2回学生に授業アンケートを実施し、課題が残る教職員には教科チーフが面談し、授業力向上のアドバイスの場を設けている。また、新入教職員には前期途中に面談を実施し、授業に関する不安を取り除く工夫を行った。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率・検定取得率に関しては昨年度と比較して高くなっているため、引き続き教員の入れ替えがあっても安定した就職指導ができるよう基盤を作る必要がある。
- ・昨今、心身・精神不調の退学者が増えており、退学率の低減が最重要課題である。
- ・自宅での学習習慣の少ない生徒が多く、自発的な勉強方法指導と、資格取得へのモチベーションの維持が必要と感じる。
- ・検定取得率の向上を図っているが、年々難しくなっている。

② 今後の改善方策

- ・定期的に職員会議にて就職指導(就職先とのマッチング、面接練習方法)について勉強会を実施する。
- ・1つのクラスに対して、複数人で担任、学科業務を行うようにしていく。生徒から担任がいつでも相談を受けられる環境作りをしていく。また、スクールカウンセラーを週1回学校に来ていただき、相談できる環境を提供に努める。
- ・精神的に弱い学生が増えているため、教職員が対応方法を研修し接していくとともに、実習先にも理解を求め共育していく環境を作っていく。
- ・卒業生専用の公式LINE運用を行い、卒業後の把握や就職支援等を同窓会担当者よりアプローチをしていく。
- ・職業経験の無い担任メンバーに向けて勉強できる機会や資格取得の機会を設けて、授業と業界の理解をしていく。
- ・検定取得率の向上のため、検定サポート(補講含む)充実化を図り、取得率向上を目指す。

③ 特記事項

- ・特になし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・在校生に対しての支援体制は整備されているが、卒業生や中途退学者への支援は不十分である。
- ・就職をゴールと設定している状況が見受けられる。あくまでもスタートと捉え、長期就労の支援を整備していく。また、卒業後の相談に関してもできるように、開かれた学校作りが必要である。

② 今後の改善方策

- ・卒業生との繋がりを強化していくために、同窓会 LINK の活用を強化するとともに、ホームページの認知拡大と卒業生対応窓口の設置がポイントとなる。(4)に記載した通り、卒業生公式LINEを運用する等再就職支援の仕組みづくりを行う。
- ・保護者との信頼関係を築き上げるために、年度初めにオンラインにて担任が保護者会を実施し、クラス運営方針等を伝え、改めて社会人育成の場としての指導にご理解いただき、保護者からも連絡をいただきやすい状況を作る。また、退学防止のために必要な学生に関しては、早い段階で三者面談を実施する。
- ・学びの多い課外活動は、学科を超えたボランティアサークルを立ち上げ、誰もが活動できる機会を設け、積極的に支援していく。
- ・教室に入れない、集団に馴染むのが辛いといった学生に対して、クラス以外の居場所を作り、休めるスペースを作る。
- ・2024 年度から「キャリア探求活動」という名目で、所属している職業に対して目標喪失した学生を違う業界への訪問やボランティア活動を通じて、改めて目標を作り、退学を防止する制度を配1ぼう

③ 特記事項

- ・特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・防災に対して生徒の意識を向上させていく必要性がある。
- ・校内の教室環境が整備されつつあるので、それを最大限に生かし、教育成果に繋げていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・5月中旬に避難訓練を実施。
- ・FREE Wi-Fi、各教室のプロジェクター設置等環境が整ったため、実践的な授業展開ができるようシラバスやカリキュラムを見直していく。（電子教材等）

③ 特記事項

- ・特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

北海道や北海道専修学校各種学校連合会の規定に従い、適切に実施しているため課題はない。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

昨年同様、18歳人口が減少している中で専修学校は当校のみならず、学生募集に苦戦しているのが現状。いかに選ばれる学校であり続けるかが重要となる。検定取得率・就職率向上はもちろんであるが、引き続き、人間教育にも更に力を入れ、教務においても安心して預けられる学校にならなければいけない。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・介護や保育の分野では、ボランティア等で地域貢献しているが、医療系の学科は不十分である。

② 今後の改善方策

・学科に捉われず、ボランティア活動を実施中。また、施設や医療機関から情報共有をして頂き、生徒へ情報を開示していく。

・姉妹校と連携して、SDGs 活動を実施予定。

③ 特記事項

・介護福祉科は委託訓練生の受け入れを行っている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・学生が減少している中でも三幸学園は生徒数が多く、美容医療コース設置など新しい取り組みに挑戦する等工夫が感じられる。18歳人口が減ってきているため、一丸となって業界を盛り上げたい。